

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月31日

事業所名 放課後等デイサービスかしのき教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	ブースで一人1ブースあり	ソファのある所が死角になっているため職員全体で周知している。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	適正人数を配置	もう一人いると余裕が出来る
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	25%	75%	ブースを開ける際声をかける	1階に階段があるため必要に応じてスタッフが動けるよう配置しておく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	全員が参加できている。	特に無し
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	実施している	回収率の向上と日頃の聞き取りを強化している
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	自社のホームページにて公開	特になし
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		現在第三者評価については受講を検討中
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	毎月研修の機会を持っている	研修内容を向上していく
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	6ヶ月に1度時間を頂いている。また、個別の相談も対応している	特に無し
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	アセスメントシートを活用	アセスメントツールの改良・改善
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	毎朝ケース会議を行っている	ケース会議のブラッシュアップ
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	児童の状況や保護者のニーズに即して変更している	特に無し
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	冬休みの課題など時期に応じた課題設定をしている	長期休暇中の課題をより把握していきたい
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	基本個別だが、同時間帯の利用については時折グループ活動もあることを含めて計画を立てている	特に無し
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎日ケース会議を開催	ケース会議の内容をブラッシュアップしていく
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	必要に応じて次の日にしたりもするが共有できるようにしている	ケース会議の内容のブラッシュアップ
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	連絡帳などを利用しつつ記録は残している	記録を見直し改善までは出来ていないため、ケース会議の形式や記録様式の改善を行っている
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	モニタリングは6ヶ月で見直している	モニタリングのツールを開発していく	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	学習、SSTなど複数取り入れている	項目の明確化を行っていく

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	サービス担当者会議は開催されれば必ず参加している	サービス担当者会議の数を増やせるよう声を上げていきたい
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	50%	50%	要保護児童など見守りが必要な範囲については出来ている	学校の個人情報保護などの観点であまり協力で来ていないため、今後対策が必要
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%	事例がない	医療機関との連携や情報交換は今後の課題となっている
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	100%		他害に連絡できていない、今後の課題となっている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0%	100%	事例がない	今後必要となった場合、提供する準備をしている
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	研修の機会があれば参加している	研修の機会の増加
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		現状出来てはいない。今後の課題である。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	50%	50%	事業所交流会は参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	気になる状況がある場合個別に連絡している	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0%	100%	提案はしている	トレーニングまでの事は出来ていない。今後検討が必要
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	入所時に説明している	特に無し
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	適宜行っている。	保護者への周知を必要に応じて行う
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	一度開催した	必要性を保護者の方が感じておられず、個別の問題点へのフォーカスが必要
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	代表者を相談窓口を設定	特に無し
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	講演会など広報している	日々の活動についてお知らせする機会は増やしたい
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	ヒアリハットなど反省事項の共有を図る	年1度の振り返り及び整備をしている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	ルビを振るなど配慮している	フリガナを振ることを徹底する
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	講演会に参加いただいている	コロナの状況もあり現在自粛中

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	0%	100%	緊急時対応マニュアルは周知している	他のものについても連絡網にて各保護者に通知する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年2回避難訓練を行っている	特に無し
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	年1回行っている	特に無し
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0%	100%		現在事例はないが、周知する用紙を配布するなど対応予定
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	飲食は基本禁止、飲み物は持参して頂いている	特に無し
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	事例集作成	特に無し